

かきわぎ

vol.
54

CONTENTS

就任挨拶	2
睡眠時無呼吸外来について	3
夜間・休日診療変更のお知らせ	4
ふたり主治医制について	4
医療機関を対象とした研究会のお知らせ	4

東京医科大学病院の理念と基本方針

理 念

人間愛に基づいて、患者さんとともに歩む良質な医療を実践します。

基本方針

本学の校是である“正義・友愛・奉仕”を実践します。

1. 患者さんと信頼関係を築き、安心して開かれた医療を提供します。
2. 地域医療機関と連携して良質で高度な医療を提供します。
3. 人間性豊かで人類の福祉と幸せの実現に貢献できる医療人を育成します。



撮影：岩井温（東京医科大学病院 総務課）

病院長

み き たもつ
三木 保

2018年9月1日付で病院長に就任いたしました。先生方には平素より大変お世話になり、厚く御礼申し上げます。

当院は、厚生労働省の認定する高度な医療の提供、高度な医療技術の開発及び高度な医療に関する研修を実施する能力等を備えた特定機能病院として、全診療科において良質な医療を提供しております。「満足いただける医療」をテーマに、患者さんとの信頼関係構築を基本に全職員が力を合わせ、当院の理念であります「患者さんとともに歩む良質な医療」を実践いたします。

また、この度の東京医科大学医学部医学科の不正入試問題は極めて遺憾であり、皆様に多大なご心配、ご不安をおかけしております。当院の診療に関しましては、通常通り職員一同本来業務に邁進しております。先生方からご紹介された患者さんお一人お一人の患者さんに対して安心・安全で良質な医療を提供する事で大学病院としての使命を果たして参りたいと考えております。

今後も、先生方の引き続きのご支援、ご鞭撻を心よりお願い申し上げます。

総合相談・支援センター長

やまもと けんご
山本 謙吾

2018年9月より副院長および総合相談・支援センター長を拝命いたしました。先生方には平素より大変お世話になり、心より感謝申し上げます。

さて、総合相談・支援センターでは、医師、看護師、医療ソーシャルワーカー、および専門相談員が連携し、患者さんおよび御家族が適切でより良い療養、社会生活を営めるよう、迅速に支援を行っております。当院で高度先進医療や急性期医療を受けられる患者さんが、入院前から退院後の状況や生活を見据えた繋がりのある医療を提供できるよう、更なる医療連携の推進が求められております。

地域医療機関の皆様には、今後ともご意見を頂戴しながら、医療連携に関する様々な情報提供をはじめ、医療連携懇話会の開催など、顔の見える医療連携を推進することにより、患者さんが安心して受けられる医療環境の構築に尽力して参ります。お気づきの点がございましたら、忌憚のないご意見を頂戴したく存じます。

今後とも倍旧のご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



循環器内科 准教授
た か た よ し ふ み
高田 佳史

睡眠時無呼吸症候群（SAS）は、いびきや日中の眠気を引き起こし社会生活に支障をきたすのみならず、高血圧、糖尿病、肥満などの生活習慣病と深く関連し、冠動脈疾患、脳血管障害、心不全、心房細動などのさまざまな循環器疾患の発症や増悪に影響していることが広く認知されてきました。

東京医科大学病院では、循環器内科がこの領域を担当する利点（循環器疾患のリスク評価と治療、生活習慣病の管理）を生かし、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、歯科口腔外科や検査技師らと密な連携をとりながら、SAS 診療を進めてまいりました。循環器内科病棟内にある睡眠呼吸障害検査室にて、2005 年から現在までに 5000 例を超える終夜睡眠ポリソムノグラム検査を行いました。多職種で毎週開かれる SAS カンファレンスにおいて全例を検討し、患者さん一人一人の背景を踏まえたうえでの最良の治療を提供できるように努めています。

SAS の診断、治療が必要と思われる患者さんがいらっしゃいましたら、お気軽にご相談ください。CPAP 治療については病診連携をさらに深めていきたいと考えていますので、今後とも宜しくお願いします。

「睡眠時無呼吸（SAS）初診外来」の受診について

初診は毎週木曜日の午後 1 時から予約制で診療しています。医療機関または患者さんご本人からでも予約をお取りいただけます。

TEL：03-3342-6111（代表） 内線：3000（内科外来受付）

可能なかぎり診療情報提供書をご用意ください。初診時には耳鼻咽喉科・頭頸部外科の診察なども行いますので、時間に余裕をもった受診をお願いします。



SAS カンファレンス



SAS を担当する循環器内科医と検査技師

夜間・休日診療体制変更のお知らせ

平成 30 年 1 月 9 日より、新宿労働基準監督署より医師の労働時間に関する指導があり、医師の当直体制を変更しております。

従来、夜間・休日等の診療時間外におきましては、各診療科の当直医が院内に常駐する体制をとっていましたが、変更後より専門科の異なる医師同士による総合的な診療チーム（内科、外科、小児、救急など）を編成し院内に常駐させております。これに伴って、このチーム以外の診療科はオンコール体制のため、従来と比べてご不便をおかけいたしておりますが、当院の事情、医師の働き方改革の観点等をご賢察いただき、ご理解の程よろしくお願いいたします。

※夜間・休日の診療体制は、緊急度の高い二次救急医療【救急外来】と三次救命救急医療【救命救急センター】の診療受入れとなります。

※夜間・休日帯に患者受入れのご依頼をされる際には、事前に電話（代表：03-3342-6111）でのご紹介いただいた後に、緊急度により東京消防庁への患者救急搬送指示等でご来院いただくようお願いします。

ふたり主治医制について

当院では「ふたり主治医制」を積極的に推進し、「かかりつけ医」と「大学病院」が協力し合って、質の高い医療を提供していきたいと考えております。

患者さんの病態の把握と長期処方による副作用の早期発見と防止のために、病状が安定し、長期投薬が可能な方については、「かかりつけ医」の先生に紹介させていただき、当院の医師が「ふたり主治医」として連携しながら患者さんの治療にあたります。

高度急性期病院としての役割を担うため、先生方と一層の連携を図ってまいりたいと存じます。これからもご指導、ご支援をよろしくお願い申し上げます。



医療機関を対象とした研究会のお知らせ

第 48 回 新都心医療連携懇話会

●日 時 2018 年 11 月 28 日（水） 19:00 ～

●場 所 東京医科大学病院 本館 6 階 臨床講堂

●テーマ 「頑固な腰痛、頸部痛対策と最近の治療」

●内 容 講演① 『腰曲り、首下がり（成人脊柱変形）の病態、症状』

東京医科大学整形外科学分野 助教 松岡 佑嗣

講演② 『最近の保存治療（慢性疼痛、フレイル、鬱と痛みの関係など）』

東京医科大学整形外科学分野 講師 遠藤 健司

講演③ 『最近の手術加療（最小侵襲治療の進歩）』

東京医科大学整形外科学分野 助教 高松 太郎

